



2018年3月期 決算説明会

東京製綱株式会社

(TOKYO ROPE MFG. CO., LTD.)

2018年5月31日

1. 2018年3月期 決算概要

2. 2019年3月期 見通し

3. 中期経営計画の進捗

2018年3月期 決算ポイント

ワイヤソー事業撤退による売上減により減収減益なるも最終益は改善。開発製品の海外プロジェクトは増収

売上高 635億37百万円 [前期比 Δ2.2%]

ワイヤソー事業撤退による売上減と鋼索鋼線、タイヤコードの減により減収

営業利益 30億94百万円 [前期比 Δ11.4%]

上記売上減少に伴い減益

親会社株主に帰属する当期純利益 25億23百万円 [前期比 +34.0%]

持分法投資損益の改善、特別損益の改善等があり増益

2018年3月期 決算ハイライト

(金額:百万円)

| | 17年3月期 | | 18年3月期 | | 前年同期比 | |
|-------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|----------|
| | 金額 | (売上高比) | 金額 | (売上高比) | 金額 | (増減比) |
| 売上高 | 64,993 | | 63,537 | | △1,456 | (△2.2%) |
| 営業利益 | 3,492 | (5.4%) | 3,094 | (4.9%) | △398 | (△11.4%) |
| 経常利益 | 2,989 | (4.6%) | 3,114 | (4.9%) | +125 | (+4.2%) |
| 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | 1,882 | (2.9%) | 2,523 | (4.0%) | +641 | (+34.0%) |

セグメント別の状況(売上高)

鋼索鋼線：国内増収。中国向エレベータ、繊維ロープ(特需終息)が減収

スチールコード：ワイヤソー事業撤退、タイヤコードの販売減により減収

開発製品：国内道路、橋梁、海外防災製品、CFCCの販売増により増収

(金額:百万円)

| | 17年3月期 | | 18年3月期 | | 前年同期比 | |
|---------|--------|----------|--------|----------|--------|----------|
| | 金額 | (構成比) | 金額 | (構成比) | 金額 | (増減比) |
| 鋼索鋼線 | 28,736 | (44.2%) | 27,531 | (43.3%) | △1,204 | (△4.2%) |
| スチールコード | 14,506 | (22.3%) | 11,436 | (18.0%) | △3,069 | (△21.2%) |
| 開発製品 | 12,927 | (19.9%) | 14,799 | (23.3%) | +1,872 | (+14.5%) |
| 不動産 | 1,315 | (2.0%) | 1,215 | (1.9%) | △100 | (△7.6%) |
| その他 | 7,508 | (11.6%) | 8,553 | (13.5%) | +1,045 | (+13.9%) |
| 合計 | 64,993 | (100.0%) | 63,537 | (100.0%) | △1,456 | (△2.2%) |

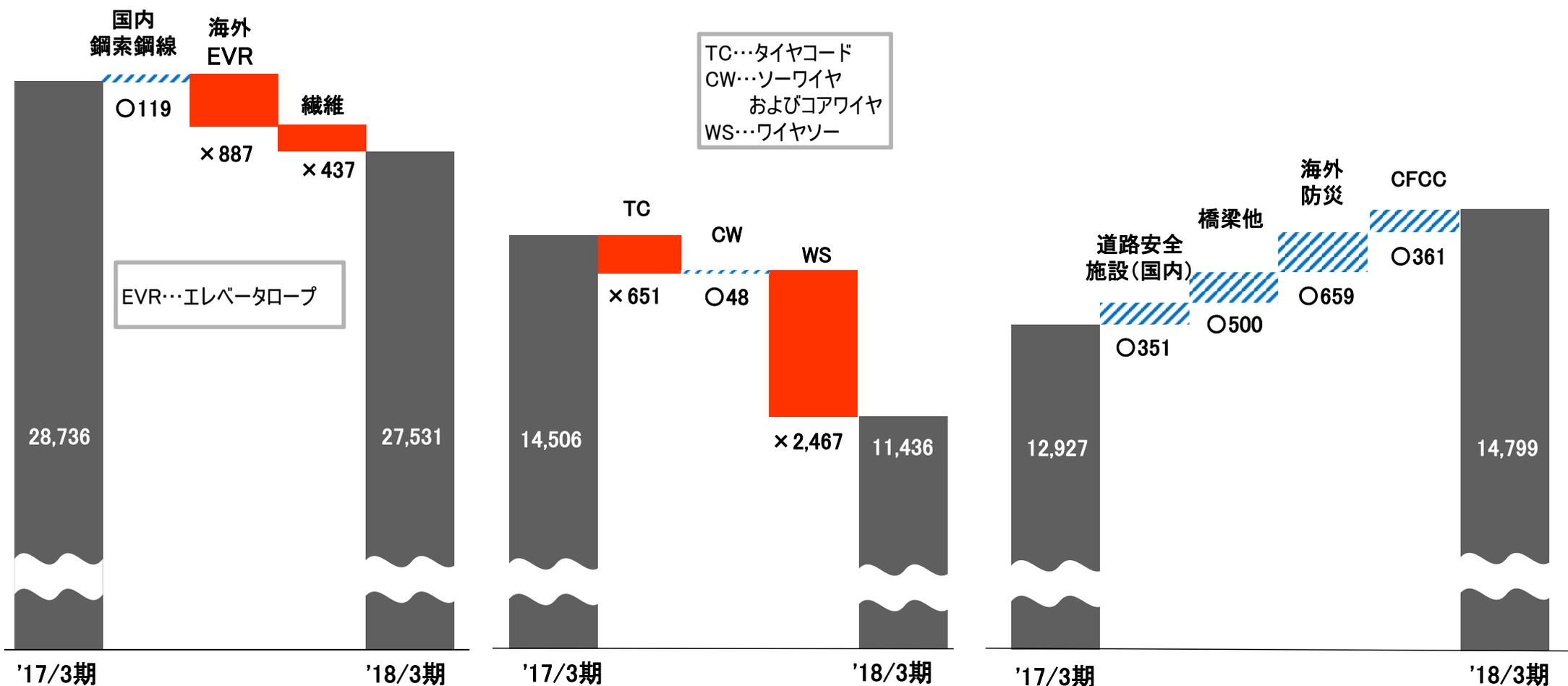
'17/3期実績vs'18/3期実績 増減要因 (売上高)

(単位:百万円)

鋼索鋼線

スチールコード

開発製品



セグメント別の状況(営業利益)

鋼索鋼線 : 中国向エレベータ、繊維ロープの減収による減益

スチールコード: ワイヤソー事業撤退とタイヤコードの販売減による減益

開発製品 : 国内、海外の増収による利益改善

その他 : 産業機械、精密切削工具用素材 増益

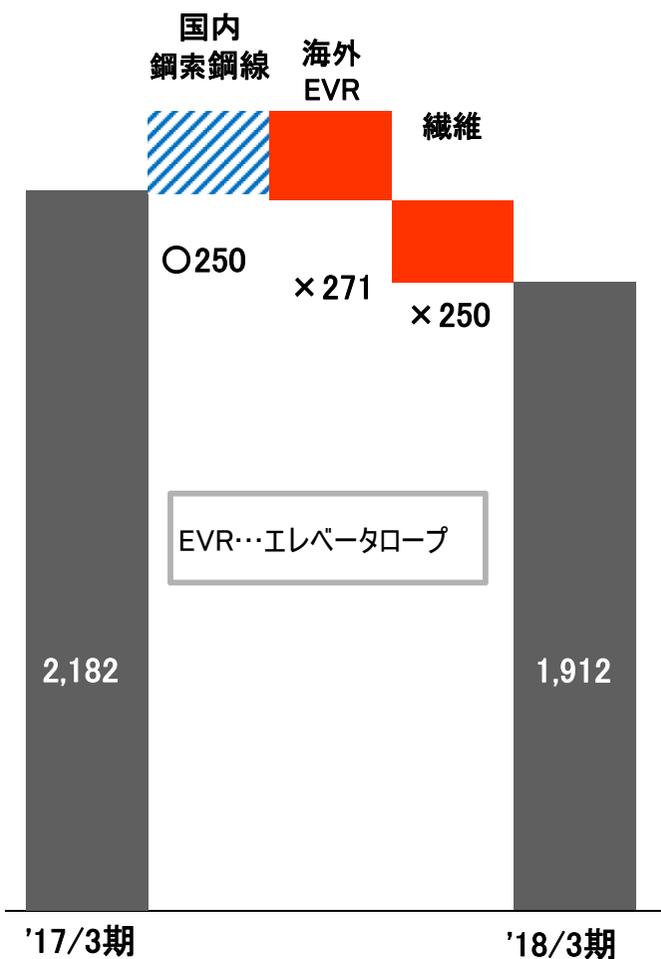
(金額:百万円)

| | 17年3月期 | 18年3月期 | 前年同期比 | |
|---------|--------|--------|-------|----------|
| | | | 金額 | (増減比) |
| 鋼 索 鋼 線 | 2,182 | 1,912 | △269 | (△12.3%) |
| スチールコード | 1,159 | 534 | △624 | (△53.9%) |
| 開 発 製 品 | △622 | △401 | +221 | — |
| 不 動 産 | 323 | 329 | +6 | (+1.9%) |
| そ の 他 | 450 | 719 | +269 | (+59.8%) |
| 合 計 | 3,492 | 3,094 | △398 | (△11.4%) |

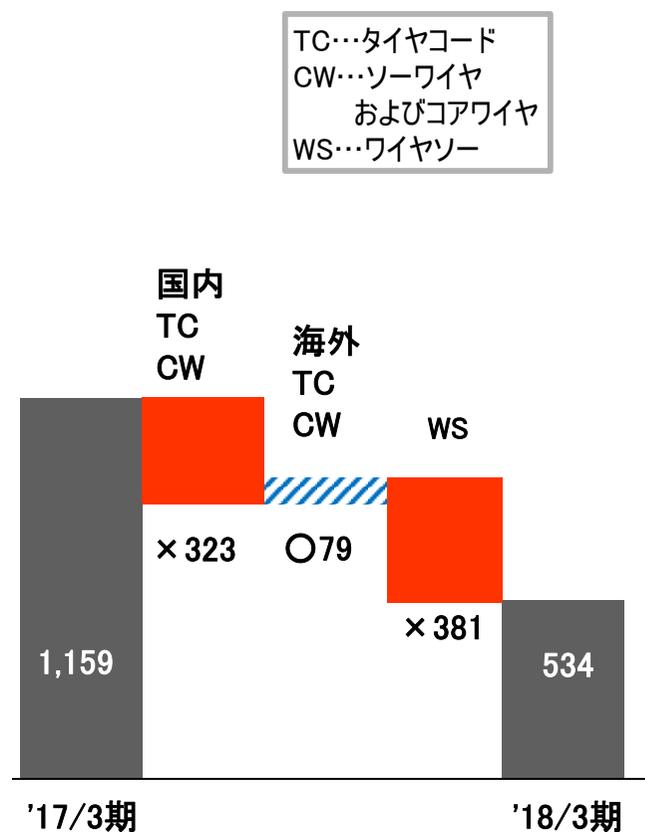
'17/3期実績vs'18/3期実績増減要因 (営業利益)

(単位:百万円)

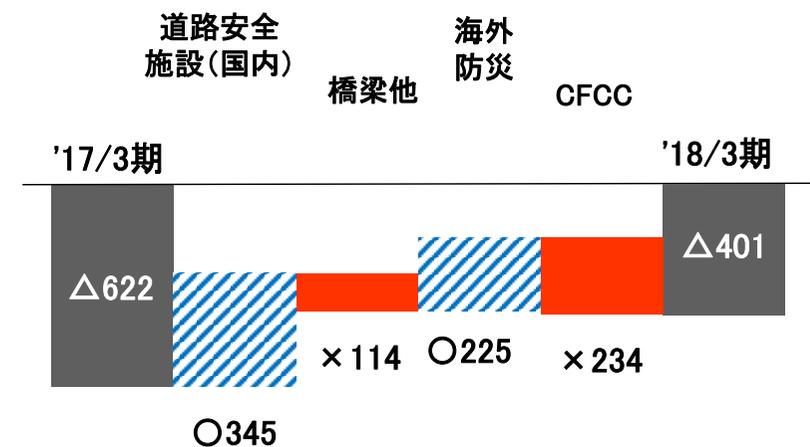
鋼索鋼線



スチールコード



開発製品



キャッシュ・フロー

営業活動：概ね期間利益および減価償却費見合い

投資活動：有形固定資産の取得（北米、土浦等）

財務活動：配当金支払、子会社種類株式償還、
次期投融資に備え資金調達

（金額：百万円）

| | 17年3月期 | 18年3月期 |
|----------------------|--------|--------|
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 4,569 | 3,144 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 3,491 | 4,202 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △100 | △3,475 |
| フリー・キャッシュ・フロー | 3,391 | 726 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △5,319 | 123 |
| その他（為替換算差・新規連結に伴う増減） | 504 | 356 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 3,144 | 4,352 |

設備投資の状況

2018年3月期
設備投資額

2,978百万円
(前年同期比+1,412百万円)

| | |
|--------------------------------|------|
| 土浦工場 戦略投資 (競争力強化投資、橋梁ワイヤ設備) | 7億円 |
| CFCC北米工場の固定資産取得 | 7億円 |
| CFCC北上工場建設開始 | 5億円 |
| その他 | 10億円 |

1. 2018年3月期 決算概要

2. 2019年3月期 見通し

3. 中期経営計画の進捗

2019年3月期 見通し

CFCC、防災製品（開発製品セグメント）及び
コアワイヤ（ダイヤモンドワイヤ用極細ワイヤ：スチールコードセグメント）の
海外拡販による増収増益

（金額：百万円）

| | 18年3月期 | | 19年3月期 | | 前年同期比 | |
|---------------------|--------|--------|--------|--------|--------|----------|
| | 金額 | (売上高比) | 金額 | (売上高比) | 金額 | (増減比) |
| 売上高 | 63,537 | | 71,000 | | +7,463 | (+11.7%) |
| 営業利益 | 3,094 | (4.9%) | 4,200 | (5.9%) | +1,106 | (+35.7%) |
| 経常利益 | 3,114 | (4.9%) | 4,100 | (5.8%) | +986 | (+31.7%) |
| 親会社株主に帰属 する当期純利益 | 2,523 | (4.0%) | 2,900 | (4.1%) | +377 | (+14.9%) |

2019年3月期 セグメント別見通し(売上高)

鋼索鋼線 : 海外向エレベータ、繊維ロープ一部回復

スチールコード : タイヤコード回復、コアワイヤの拡販

開発製品 : CFCC、防災製品の海外プロジェクト進捗により大幅増収

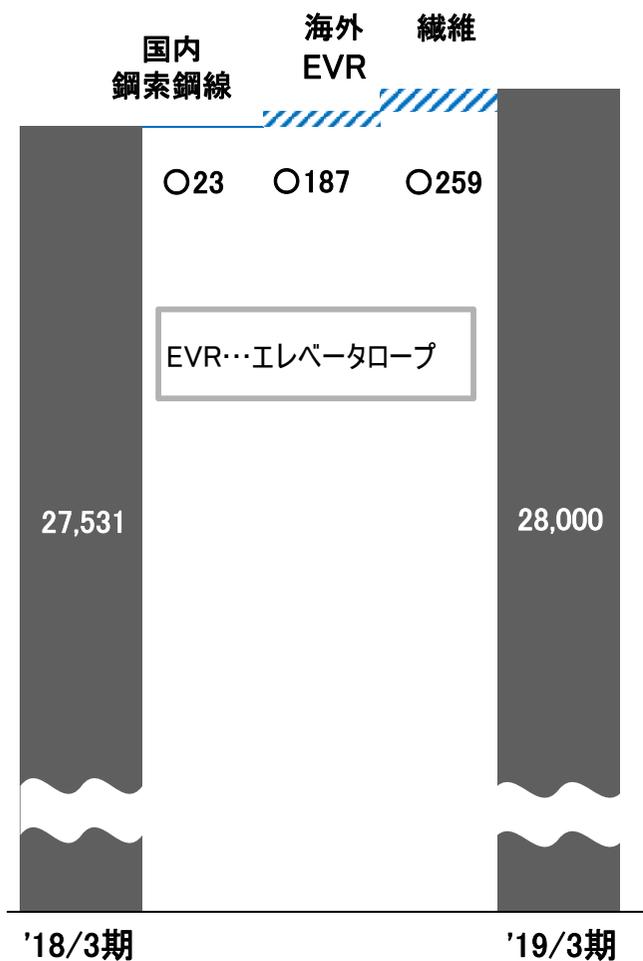
(金額:百万円)

| | 18年3月期 | | 19年3月期 | | 前年同期比 | |
|---------|--------|----------|--------|----------|--------|----------|
| | 金額 | (構成比) | 金額 | (構成比) | 金額 | (増減比) |
| 鋼索鋼線 | 27,531 | (43.3%) | 28,000 | (39.4%) | +468 | (+1.7%) |
| スチールコード | 11,436 | (18.0%) | 14,000 | (19.7%) | +2,563 | (+22.4%) |
| 開発製品 | 14,799 | (23.3%) | 19,000 | (26.8%) | +4,200 | (+28.4%) |
| 不動産 | 1,215 | (1.9%) | 1,200 | (1.7%) | △16 | (△1.3%) |
| その他 | 8,553 | (13.5%) | 8,800 | (12.4%) | +246 | (+2.9%) |
| 合計 | 63,537 | (100.0%) | 71,000 | (100.0%) | +7,463 | (+11.7%) |

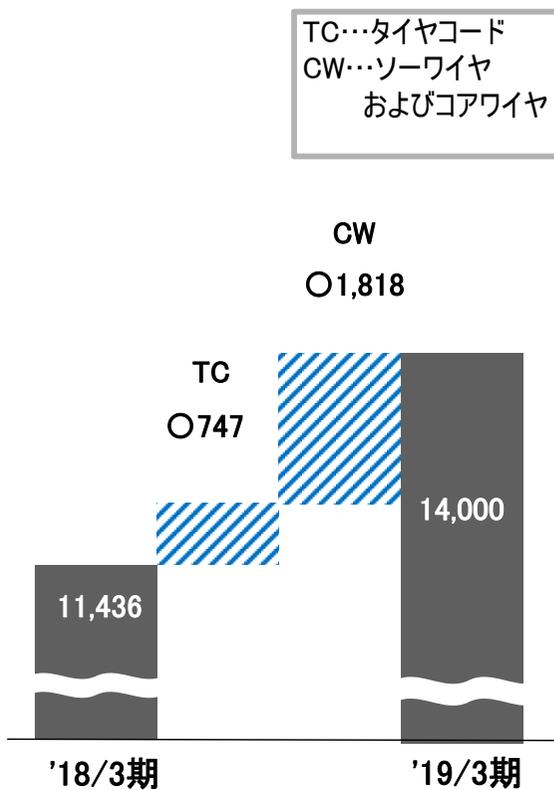
'18/3期実績vs'19/3期見通し 増減要因 (売上高)

(単位:百万円)

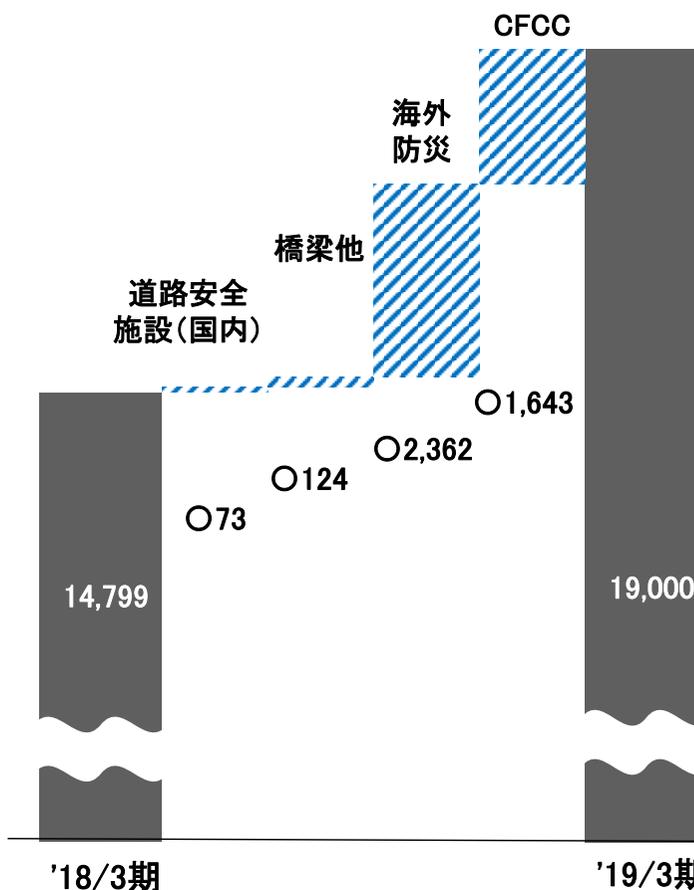
鋼索鋼線



スチールコード



開発製品



2019年3月期 セグメント別見通し(営業利益)

鋼索鋼線 : 原材料費、償却費等コスト増加

スチールコード : 原材料費等コスト増加も
タイヤコード回復とコアワイヤの増収により増益

開発製品 : CFCCおよび海外防災製品の拡販に伴い黒字化

(金額:百万円)

| | 18年3月期 | 19年3月期 | 前年同期比 | |
|---------|--------|--------|--------|-----------|
| | | | 金額 | (増減比) |
| 鋼 索 鋼 線 | 1,912 | 1,500 | △413 | (△21.6%) |
| スチールコード | 534 | 1,450 | +915 | (+171.2%) |
| 開 発 製 品 | △401 | 350 | +751 | — |
| 不 動 産 | 329 | 300 | △30 | (△9.0%) |
| そ の 他 | 719 | 600 | △119 | (△16.6%) |
| 合 計 | 3,094 | 4,200 | +1,105 | (+35.7%) |

'18/3期実績vs'19/3期見通し 増減要因 (営業利益)

(単位:百万円)

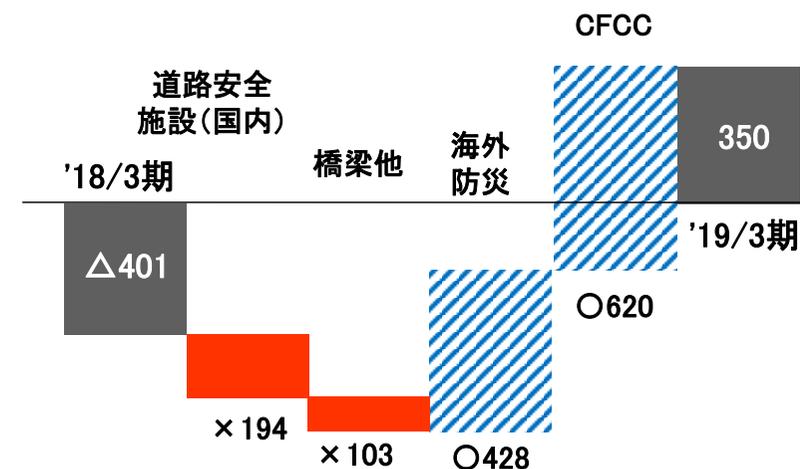
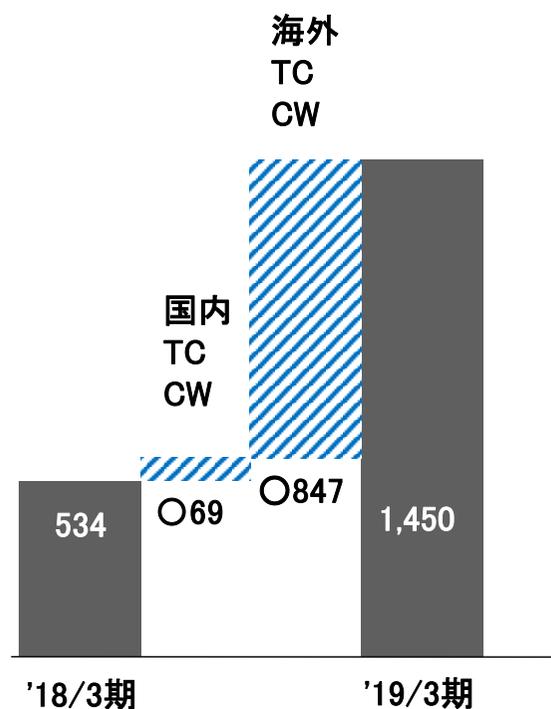
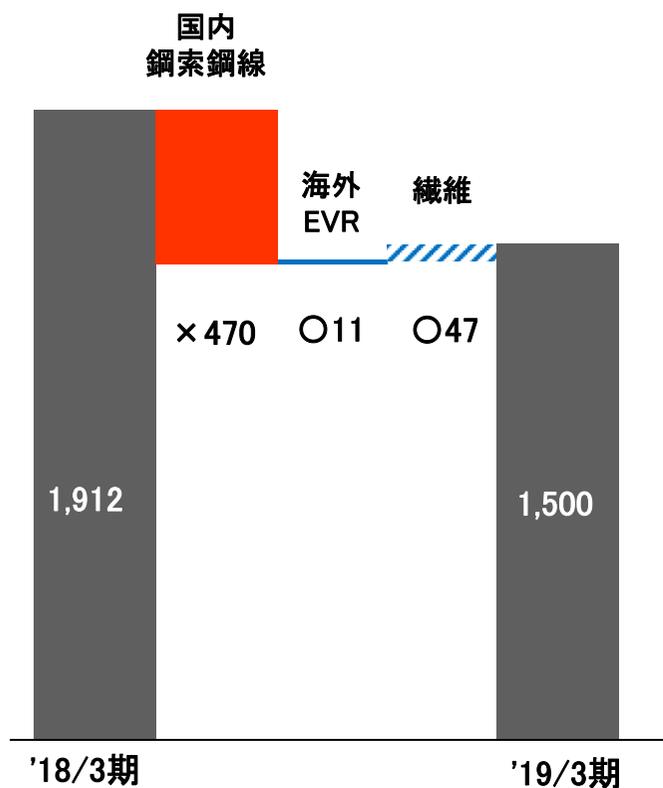
鋼索鋼線

EVR…エレベータロープ

スチールコード

TC…タイヤコード
CW…ソーワイヤ
およびコアワイヤ

開発製品



配当方針

19/3期：40.0円の配当を予想

| 年 度 | 17/3期 | 18/3期 | 19/3期 予想 |
|---------------|---------|---------|----------|
| 配 当 (年度当り) | 40.0円/株 | 40.0円/株 | 40.0円/株 |
| 配当性向 (連結) | 34.4% | 25.6% | 22.2% |

1. 2018年3月期 決算概要

2. 2019年3月期見通し

3. 中期経営計画の進捗

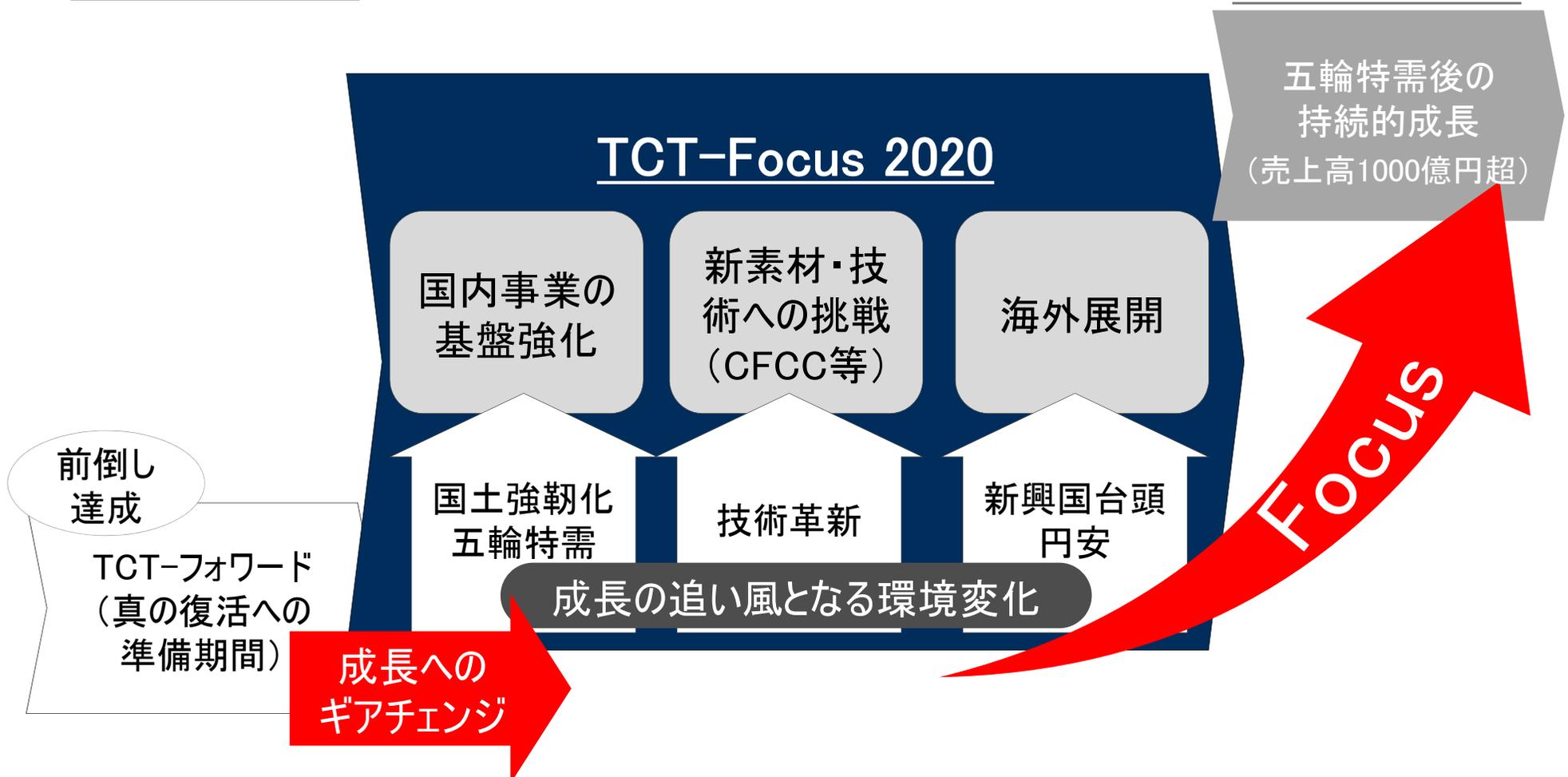
中期経営計画 TCT-Focus2020 の基本コンセプト

「国内事業の基盤強化」、「新素材・新技術への挑戦」、「海外展開」の3つをキーワードとして、全事業の活性化に挑戦する基本コンセプトを継続。最終年度の目標値に変更はなし。

～2014年

2015年～2019年

2020年以降



当社グループが目指す中期経営計画最終年度の姿

●定性的目標

2020年以降の持続的成長にフォーカスし、その礎を築くべく、「トータル・ケーブル・テクノロジーの追求」によって、グローバル市場での競争力強化を図り、より一層社会に貢献できる企業価値の高いエクセレントカンパニーとなることを目指す

●計画最終年度の定量目標(20/3期) [2017年5月発表数値]



2018年4月より 新会社 東京製綱インターナショナル(株) 稼働

CFCC事業/防災製品事業を担う新会社が稼働。
大規模な潜在需要をもつ海外市場において、
各国の政治・経済情勢に合致させたタイムリーな営業活動を企図。

1. 事業内容 : 炭素繊維複合材の製造・加工・販売
道路・防災関連施設の設計・製造・施工・請負 他
2. 株主 : 東京製綱(株)(100%)
3. 承継資産 : 57億円
4. 拠点 : 蒲郡工場、北上工場、北米工場、
ロシア販売会社、ロシア工場(JV)、カザフスタン工場
5. 売上目標 : 58億円(2018年度)、130億円(2019年度)

新会社 東京製綱インターナショナル(株)の状況 1/7

CFCC[®] /送電線事業の海外展開

1. インドネシア

住民運動による現地架線工事遅延は終息見込。工事再開は6～7月の予定。完工後性能評価を経て、新規案件へ応札。

2. 北米

大手電線メーカーと基本契約締結。技術協力により電線製品化。電線メーカー通じ北中米10か国の案件に下期販売予定。

3. その他

インドでは電線2社と協業合意。案件入札準備中。
 ブラジルは最大手電線メーカーとMOU締結。
 マレーシア、フィリピンでも営業活動を展開中。

新会社 東京製綱インターナショナル(株)の状況 2/7

CFCC[®] /送電線事業の海外展開

4.ロシア

- ・ 架空送電線総長16万km(推定)のロシアで市場展開を開始。
- ・ 国有送電会社ROSSETIとパイロットプロジェクトのMOU締結(5/24サンクトペテルブルク国際経済フォーラム)。技術協力を開始し来年度前半に架線予定。
- ・ 日露8項目の経済協力プラン省エネ部門に登録され、日露両国の公式な経済プランと位置付けられた。



PJSC ROSSETIとの契約締結式
ROSSETI CEO(左)、当社社長 田中(右)

新会社 東京製綱インターナショナル(株)の状況 3/7

CFCC[®] /土木事業の進捗

1. 米国 コンクリート桁

全米高速道路協会とミシガン州運輸局の設計指針はドラフト完成。制定は2018年度中の見通し。ミシガン州高速道路や州間高速道路の橋梁に採用され、今後全米に拡大の見通し。



2. 米国 コンクリート杭

設計指針が制定されたバージニア州では大型橋梁プロジェクト受注に向けテスト開始。同州の他の大型プロジェクト案件も活動中。



新会社 東京製綱インターナショナル(株)の状況 4/7

CFCC[®] /土木事業の進捗

3.国内 土木事業の実績

国交省の港湾整備事業に採用。
バルク戦略港湾において塩害に対するメンテフリーが評価された。

- ・釧路港棧橋

コンベア基礎のメンテ困難部に
PC床板として使用。

- ・小名浜港

耐震岸壁整備の棧橋間渡橋の桁。



釧路西港地区 岸壁工事イメージ



釧路西港地区 岸壁完成写真



PC桁

新会社 東京製綱インターナショナル(株)の状況 5/7

防災製品の海外展開

1.カザフスタン

エセンタイ川のRockBox(当社仕様の高強度めっき線設計織込案件:9億円規模)の入札開始。マイティネットや他の大型河川の入札案件が多数あり。



RockBox施行例

2.ロシア

ロシア財政収支好転で投資拡大に期待。昨年設立の現地JVにより、ロシア鉄道の案件やソチのスキー場斜面補強プロジェクト(5億円)他に受注活動を展開。



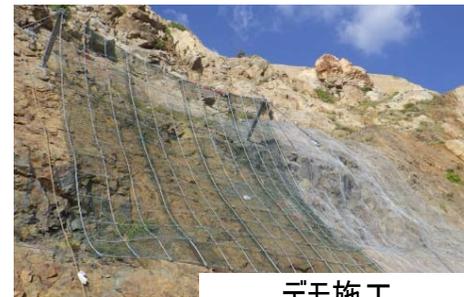
マイティネット施行例

新会社 東京製綱インターナショナル(株)の状況 6/7

防災製品の海外展開

3.サウジアラビア(市場規模数百億円)

- メッカ含む西側地帯に膨大な需要。
- サウジ「VISION2030」ではメッカ巡礼道路の大規模整備の計画。
- 「日・サウジVISION2030」において当社落石対策工事が巡礼道路安全対策のEnabler Showcase Projectに選定された。
- アブハ地区の防災計画を提案し今年度予算化された(29億円)。
- サウジへの工場進出も視野。



デモ施工



日・サウジVISION2030 フォーラム



アブハ地区 落石崩壊現場

新会社 東京製綱インターナショナル(株)の状況 7/7

生産拠点増強の状況

- 1.CFCC新工場(北上市:投資総額15億円)は7月生産開始予定。
- 2.ロシアでは経済特区においてJVによる防災製品の工場を建設中。
8月稼働予定。
- 3.カザフスタン防災製品の新工場は品目拡充と能力増強中。6月竣工・稼働。



ロシア サンクトペテルブルク経済特区
のJV工場(建設中)

当社グループが目指す中期経営計画最終年度の姿 売上・利益の目標

(億円)

| | 18/3期 (実績) | 19/3期 | | 20/3期 | |
|--------|---------------|-------|--------|-------|--------|
| | | | 18/3期比 | | 18/3期比 |
| 売上高 | 635 | 710 | +75 | 800 | +165 |
| 海外比率 | 13.2% | 20% | +6.8% | 26% | +12.8% |
| 営業利益 | 31 | 42 | +11 | 80 | +49 |
| EBITDA | 51 | 67 | +16 | 108 | +57 |

1. 2017改訂した中計目標値に変更なし
2. 海外比率はソーワイヤおよび成長分野伸長により上昇

当社グループが目指す中期経営計画最終年度の姿

自己資本比率とROE、D/Eレシオ、配当政策

| | 18/3期 (実績) | 19/3期 | | 20/3期 | |
|--------|---------------|-------|--------|---------|--------|
| | | | 18/3期比 | | 18/3期比 |
| 自己資本比率 | 29.9% | 31.7% | +1.8% | 35.7% | +5.8% |
| ROE | 10.2% | 10.9% | +0.8% | 15.9% | +5.8% |
| D/Eレシオ | 1.09 | 0.96 | ○0.13 | 0.74 | ○0.35 |
| 配当目標 | 40円/株 | 40円/株 | | 株主還元の拡大 | |

1. 期間利益を着実に積上げ、計画最終年度(20/3期)の自己資本比率は35%超とする見通し
2. D/Eレシオは1.0以下へ(※有利子負債圧縮、設備投資、配当拡大のバランス重視)
3. 継続的な安定配当をベースに、株主還元の拡大を目指す

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

本資料に記載された予測、予想、見込みその他の将来情報は、現時点で当社が把握可能な情報および一定の前提または仮定に基づくものであり、今後、経済情勢をはじめ、当社の業績に影響を与える様々な既知または未知のリスクによって、ここに述べられている見通しと実際の結果が、大きく異なる可能性があります。